

# 西之内町地車新調 実行委員会通信

2022 年  
8 月号

新調通信に関する御問い合わせ  
西之内町公民館  
072・444・7712

## 西之内町新調地車

### 彫刻の物語背景と紹介（16）

#### 兵主神社 蛇淵伝説

暦の上では処暑を迎えたとはいえ、夏の名残の暑さはなおもとどまっているようですが、西之内町の皆様におかれましてはお元氣でお過ごしのことと存じます。新型コロナウイルスにより生活スタイルが大きく変化をしなければならない中、祭礼やお盆といった文化も時代に沿って変化を求められているのではないかと感じております。

今月も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。先月号までは、新調地車の主題目である『難波戦記』についてご紹介してまいりました。今回からは、この地域ならではの物語をご紹介します。

西之内町の氏神である兵主神社は、『延喜式神名帳』に記載されている和泉国の式内社であります。旧社格は郷社。「大宮」とも呼ばれ、最寄駅である和泉大宮駅の由来となっています。掃守郷12か村の総社であり、天正年間に兵火に遭い、多くの記



兵主神社 本殿前正面鳥居

録を焼失したため創建年代は不明ですが、『延喜式神名帳』に和泉国和泉郡の延喜式内社二十八座のひとつであるという記載があります。安土桃山時代、豊臣秀吉によって本殿が再建されております。寛文6年（1629年）の古文書に「能おわりて候て六十二年と覚え候」という記載があることから、永禄10年（1567年）まで能が舞われたと考えられます。その能に使用

されたとされる9面の能面は現存しており、「天降の面」といわれております。寛保3年（1743年）、岸和田藩主より桐箱及び金欄の面袋が寄贈されました。明治6年に郷社に列格した格式のある神社であります。

その歴史ある兵主神社には、様々な言い伝えがあり、その中の代表的な物語を、新調だんじり彫刻に採用しております。

兵主神社の鳥居をくぐると長細い池があり、中央に朱の欄干の橋が架かっています。この池は「蛇淵」と呼ばれ、古くから雨乞祈願が行われたところです。この蛇淵には以下のような伝説があります。

「むかあし、真夜中の田んぼ道でなあ、婚礼の振る舞い酒に酔うて、道がわからんよになつてしもたお爺（じい）が、森の中にひとり立ってる女子（おなご）に道を尋（たん）ねたんやし。

「今年は雨が降れへんさかい、川も干上（ひあ）がって、あんばい道もわからんよにな

つてしもた。和泉の宮さんほどの方角や」

「宮さんやつたら、この森をぬけたとこやけどー」

「そらあもうきれいな女子（おなご）やつたけど、何（なん）やしらん、体が青う光ってるみたいやつた。」

「この森やて？」

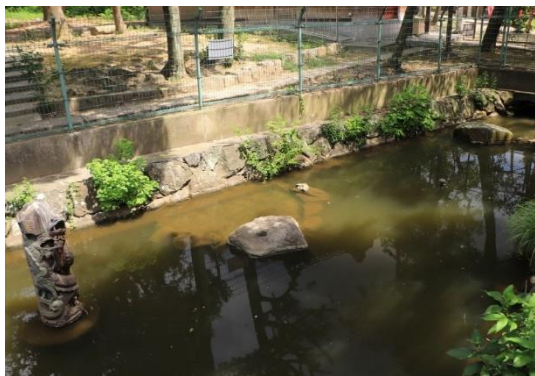
お爺が森の方へ目えこらすと、木下（こした）かげからこつちへやつて来る男がおつた。ええ男やけど、やつぱし体が青う光つちやある。

と、ふたりは、いつときに大（おお）きな声をあげ、駆け寄って手え取り合（お）うたと、見る間もなく、叩きつけるような雨、雨、雨の中で、大きな蛇が2匹、からみあい、チャブリ……

小（ちっ）ちゃん池の底へ身い躍（おど）らせて見えんようになつてしもた。

「わあっ」

お爺がびっくり仰天（ぎょうてん）しながらう見ると、そこは宮さんの蛇淵やつたんやてえ。」



兵主神社 蛇淵

（岸和田市ホームページより原文のまま掲載）

この蛇淵の底は今も久米田池に通じているといわれます。この久米田池に通じてるといふ伝説も別の伝説との関連があり、兵主神社の約千百年の歴史を感じるところです。

兵主神社の兵主神とは、中国の戦の守でもある蚩尤神とも言われております。また大国主命とも八千矛神とも同一視されており、そのあたりは不明な点が多いところでもあります。天正年間の兵火で本殿消失という惨事に見舞われた際に、古文書など

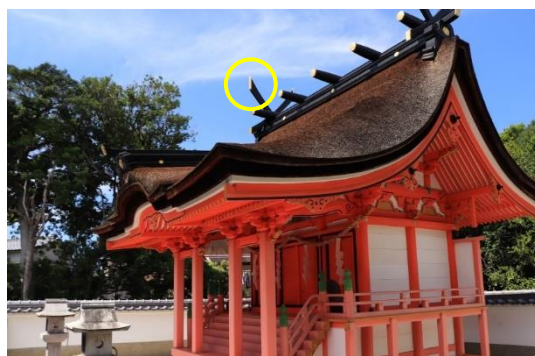
も焼失し、しばらくの間は神社としての活動などもできなかったたのではないかと思います。

その後再建された際に、主神を天照大神としたのではないかと いわれております。本殿の千木という部分が男性の神様を祀る形となっているところからその理由が推測されます。

山本師がこの蛇淵伝説を彫刻にする際に、登場人物をどのように表現するか、ご苦労されたとおもいます。下絵にする際に、鉛筆で書いては消すということ を繰り返しておられた形跡が物語っています。

その蛇淵伝説の彫刻では、もともとの主神であったのではないかと いいう八千矛神が登場いたします。また、宝物絵馬にある力石も蛇淵の横に配し、兵主神社ならではの演出をいたしており、他に類を見ない西之内町だけの彫り物となっております。

部位は、主屋根（大屋根）の一番目につくところです。ご期待ください。



兵主神社 本殿（黄色の部分が千木：端部が縦型の本殿は男性の神。端部が横型の本殿は女性の神）

## 新調地車の彫り物

### 進捗報告

#### 横槌、懸魚の着手・その2

8月に入り、大屋根・小屋根の枘合いの仕上げ作業を行っております。

大屋根の枘合いについては、だんじりの曳行中も常に見ることが出来る部分であり、特に平（だんじりの側面）の部分については、太鼓台の狭間の構造を参考に非常に大きな彫刻の場面となるように、様々なものを一体化しております。しかし、彫刻の人物などを大きくしてしまうと場面の奥行きを感じなくなるので、人物の大きさや背景の建物、木々

の枝ぶりにも細かく配慮し、圧巻な構図となっております。

また、小屋根の枘合いは『古事記』、『日本書紀』から取り上げた南掃守にちなんだ物語であり、人物の服装などにも配慮した彫刻となっております。見てはいけない決まりを破って見てしまったものは・・・という、日本の昔話には、よくあるお話ですが、そのお話がだんじり彫刻になると、かなり迫力がある仕上がりになっております。

横槌の荒彫りに若干時間を要しましたので、次工程の懸魚の下絵からは今後早々に着手します。また、植山工務店さんの繁忙期とも重なり、山本師は仕上げの作業に重点をおいて作業を進めております。完成まで、約1年です。様々な意匠を凝らしている点に、ご期待ください。

### 新調委員の独り言

前号にて現だんじりの昇魂式が11月13日で決定したことをお伝えしました。昇魂式に対し総務部、財務部のほうで様々な企画が検討され着々と準備が進められております。ひと昔は祭礼の時に通った道も昇魂式の曳行コースに含まれるとか含まれないとか。

昇魂式まであと3カ月。記憶に残る昇魂式となるよう進めてまいります。ご期待ください